



Iwate Association for UNICEF

2012年2月

【発行】

岩手県ユニセフ協会

(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)

〒020-0180

岩手郡滝沢村土沢220-3 いわて生協本部2F

TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491

e-mail: sn.iunicef_iwate@todock.jp

ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/



▲奈良県ユニセフ協会からの折鶴とメッセージ、花育アドバイザーのお話を聞く園児たち 大槌吉里吉里保育園

3・11東日本大震災、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げますとともに、多くの皆さまのご支援に心から感謝申し上げます。

東日本大震災の直後からユニセフ(国連児童基金)は半世紀ぶりに日本の子どもたちの支援を行いました。日本ユニセフ協会は、各国から寄せられた募金をはじめ、被災地支援に対策本部を立ち上げ、多くの日本人スタッフたちが世界中から被災地の応援に駆けつけました。岩手県ユニセフ協会もボランティアのみなさんと一緒に、保育園・幼稚園・小学校の再開や支援物資、おもちゃ、文具、本などを被災した子どもたちに届け、たくさんの笑顔をいただきました。

昨年12月の「ユニセフハンド・イン・ハンド募金」では「東日本大震災支援・子どもたちに笑顔をおくろう」と、県内ボランティア878名(内子ども726名)による募金活動で、116万円を超える震災緊急募金をいただきました。

また、「ユニセフTegami Project」と結び付けたユニセフ出前講座で、世界の各国からの励ましのお手紙に、300名を超える子どもたちがお礼の返事を出しました。

被災地の子どもたちへのユニセフ支援はこれからも続きます。岩手県ユニセフ協会に対し、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

岩手県ユニセフ協会
会長 三浦 宏

文房具 ひとりひとりに!



3月11日、私たちは卒業式の練習していた時大きな揺れがあり、津波が来る前に裏山に逃げました。もどってきた時に住宅が斜めになっていてとても恐ろしかった。東日本大震災で被災した学校に、本や文房具を届けていただき本当にありがとうございました。図書室に新しい本が入るのでとても嬉しいです。文房具の一式一人一つご支援いただけてとても助かりました。

宮古市立田老第一中学校1年 加藤穂乃佳さん

日本ユニセフ協会東郷副会長 ・早水専務理事 来県

2011年10月19日、(公財)日本ユニセフ協会東郷良尚副会長が、岩手県知事達増拓也氏、岩手県警察本部長樹下尚氏、県ユニセフ協会三浦宏会長を訪問し、東日本大震災ユニセフ支援の状況報告をしました。今後は被災した子どもたちへの包括的な社会保護の拡充と子どもたちへの虐待防止、復興計画に子どもたちの意見の反映させることなどの活動に支援を要請しました。



▲岩手県警察本部長樹下尚氏との会談

2011年12月12日、(公財)日本ユニセフ協会早水専務理事が岩手県生活協同組合連合会加藤善正会長理事、いわて生活協同組合菊池専務理事を訪問し、緊急支援物資の物流に多大なご支援をいただけてことへのお礼と、今後の被災地支援活動について、県ユニセフ協会と一緒に進めていくことについて意見交換をしました。



▲右から・早水 専務理事・菊川稔コーディネーター、近藤智春フィールドマネージャ、岩手県生協連加藤善正会長理事

5歳未満児の死亡数 年間760万人に減少!



© UNICEF/NYHQ2010-3073/Giacomo Pirozzi

2011年9月15日、ユニセフは、世界保健機関(WHO)とともに、世界の5歳未満児死亡率の最新の推計値を発表。この推計によると、1990年時点で年間1,200万人以上だった5歳未満児の死亡数は、2010年には年間760万人に減少しました。1990年時点と比較すると、1日あたり1万2,000人の幼い命が守られていることとなります。

5歳未満児の死亡は、サハラ以南のアフリカと南アジアにますます集中しています。世界の5歳未満児の死亡の約半数が、わずか5カ国(インド、ナイジェリア、コンゴ民主共和国、パキスタン、中国)で起こっているのです。

東日本大震災支援

大槌町の保育園・幼稚園に球根を植えて行ってきました！

春にはまたいきましょう！

2011年10月26日、大槌町の「おさなご幼稚園」「大槌保育園」「吉里吉里保育園」を訪れ、全国からの善意を、直接、園に届けました。花育アドバイザーの指導を受け、かわいい子どもたちといっしょに、「チューリップ」「水仙」「ピオラ」などを、それぞれの園の花壇やプランターに植えました。

兵庫県ユニセフ協会からチューリップの球根、奈良県ユニセフ協会から折鶴とメッセージ(吉里吉里保育園あて)が届き、学生ボランティアが紹介しお渡ししました。一生懸命に球根を植える子どもたちに元気づけられた一日でした。



▲一生懸命に植える園児たち



▲この球根は兵庫県から来たんだよ!(吉里吉里保育園)



▲おさなご幼稚園の園児とボランティアのみなさん

ボランティアさんからの感想

- ・「被災地の状況を自分の目で確かめたかったので学園祭の振替休みを利用して参加しました。子どもたちはとても元気でしたよ」
- ・「以前に勤務していたみどり幼稚園(現在仮設園舎を建設中)にも届けたい」
- ・「阪神大震災を経験しましたが、今回の大震災の行方不明者などとの違いを感じています。」

ユニセフ Tegami Project

(ユニセフ出前講座)

9会場に児童・生徒延べ300人が参加



▲中国からのお手紙

毎年この時期は、途上国とその国の子どもたちの現状とユニセフについて学ぶ「ユニセフ出前講座」に取り組んでいます。今年は、この出前講座と、世界の30カ国から東日本大震災支援の世界の子どもたちから寄せられた2千通以上のお見舞いや激励の手紙を、日本ユニセフ協会と協力して、各地の学校に届ける「ユニセフ Tegami Project」とドッキングさせて取り組みました。スリランカ、ベトナム、南アフリカ、エリトリア、ネパール、フィジー、マダガスカル、ガーナ、中国、カンボジア、インドネシアからのお見舞いと励ましの手紙を学校に届けました。出前講座には、9カ所で延べ約300名の児童や生徒や学生が参加しました。

大船渡市立綾里中学校

2011年10月13日、大船渡市立綾里中学校に、スリランカ、ベトナム、南アフリカ、エリトリアからのお手紙や絵を届けました。

学年ごとに、感謝の気持ちをこめて返事や絵などを一生懸命に書き、10月23日の文化祭で、頂いたお手紙と一緒に展示し、父母のみなさんにも見ていただきました。

小林葉子さん(ベトナム・ユニセフスリランカ事務所で子どもの保護担当として勤務)、スリランカとベトナムの国について紹介。



「盛岡大学生協学生委員会」 写真家ジャコモ・ピロツツイさんが報告

2011年11月7日 盛岡大学学生委員会の呼びかけで、イタリアの写真家ジャコモ・ピロツツイさん(ユニセフ提携)が、中央アジアのグルジアとフィリピンの子どもの写真とグルジアとフィリピンからの大震災のお見舞いの手紙と絵を届けて、報告してくださいました。

ジャコモさんは、撮影した子どもたちの写真や本を用いて、グルジアの子どもたちが、家族からのDV(暴力)を受けていること、家族に捨てられる子、障害を持つ子どもの虐待などについて報告しました。フィリピンでは、路上で暮らす子ども、物乞い・人身売買やゴミの中から食べ物を探すいわゆる「ストリートチルドレン」のことで、マニラなど大都市では一歩路地に入るとスラム街で、子どもたちは過酷な状況に置かれていることなどを話されました。学生たちは、みんな時間を忘れて真剣に聞き入っていました。この講座から、現地の子どもの状況とユニセフが現地で子どもたちの保護などには取り組んでいることも学びました。

学生の飛内音莉さんは「世界中の子どもたちが平和にくらせるように、平和・国際活動が広がるようにと願います」と感想を話してくれました。



▲写真家ジャコモ・ピロツツイさんから受け取る飛内音莉さん



●盛岡市立上田小学校

2011年11月18日 5年生66人は、はじめにみんなで楽しく手洗いダンスをしました。続いて、DVDの「いのちの水」を上映し、西アフリカ・マリでは、「安全な水やトイレが使えないことは、多くの子どもの命に影響を及ぼすこと」。「ユニセフ支援で、村に井戸がつくられ、井戸によって変わっていくマリの人々の生活」などを知りました。

ネパールのことを学び、ネパールのお友だちから届いた手紙に返事を書きました

ネパール出身の松原杏寿さんからネパールについて学び、ネパール語の「マナステ(こんにちは)」を覚えました。続いて、ネパールで使われている本物の「水がめ」を使って「水くみ体験」をし、現地の子どもたちが毎日やっている「水くみ」の大変さを知りました。



▲盛岡市立上田小学校

●金ヶ崎町立西小学校・永岡小学校・三ヶ尻小学校、 県立大学、県立花北青雲高校

11月21日に、岩手県立大学社会福祉学部(14名)に、日本語を学んでいる中国河南理工大学日本語科4年生からの手紙を届けました。同大学で教鞭を取る張京萍准教授から中国の説明を聞いた後、大学生たちは、日本語で書かれた手紙を読んで「自分たちよりも上手な字だ!」「思いをこめて書かれた一語一語が本当に心に響き、うれしい」などと話しながら、一枚一枚に心をこめて返事を書きました。



▲ネパールの説明をする松原杏寿さん



▲11月21日 中国の説明する県立大張京萍准教授



▲11月18日 永岡小学校 JICAガーナ隊員の齋藤有香さんからガーナのお話



▲12月1日 留学生のセン・チャンダさんと花北青雲高校の皆さん
文化祭で実習品(ブッセ)を販売した売上金から「ユニセフワクチン募金(31400円)」をいただきました。



ボランティア活動から強く生きるエネルギーを

盛岡大学3年 高橋 良太さん

私は4月から、ユニセフをはじめとしたボランティア活動に関わり、被災地のことを思わない日はなく、体は無事でも心が痛まない日はありませんでした。やり場のない思いをなんとか形にしたいと強く望んでいたというのが参加した理由でした。

若く力のない自分でも、関わることで何かの支えになれたら・・・その一心で活動を続けてきました。

活動の中で、たくさんの出会いが私を支えてくれました。被災地への熱い眼差しを向けた国連ユニセフのアンソニー・レーク事務局長との対談や、環境をコーディネートしてくださった日本ユニセフ協会、県ユニセフ協会のみなさん。そして、思いを同じくする仲間と、被災しても力強く生きようとする人たちとの出会い。ひとつひとつ、そのすべてが今の私の原動力です。この経験は、どんなに苦しい時でも前を向く人々の様に震災から導くことのできた私の宝物です。

現在、私は小学校の教員になることをめざしています。学びの全てを力にできる職業です。ボランティアへの参加と人との出会いから私も力強く生きるエネルギーをいただきました。感謝とともに、次の出会いと学びに心から期待しています。

みなさんから 寄せられた感想

- ☆とてもあたたかい気持ちになりました。
- ☆水がないところでがんばっている人からも、日本のことを心配して手紙をくれた。
- ☆半世紀ぶりに日本の子どもたちをユニセフが支援していることにびっくりした。
- ☆今回の震災でユニセフが日本の東北の子どもたちを支援していると聞いて、ユニセフは本当に世界中の子どもたちのために活動しているのだなあと思いました。
- ☆こんなに心打たれる手紙が何通も何通も届いているのかと思うと涙が出そうだった。本当に手紙の言葉がありがたく感謝の気持ちを伝えたい。
- ☆メディアでは、日中のよくないニュースが報道されていますが、中国にはこのように日本のことを心配してくれている人が沢山いるんですね。
- ☆岩手県ユニセフ協会やユニセフがどのような活動をしているか今まで知らなかったが、今回の講義で知ることができ、被災地の人たちのために自分ができることは何か考え、すこしでも協力しようと思改めて思った。



▲11月3日 地域子育て創生事業実行委員会主催
“たがだのわらしBa第3弾” 後方高橋さん

「2011年度ハンド・イン・ハンド募金活動」報告

県全体では39会場
1,169,167円
ボランティア878名
(うち子ども726名)が参加

東日本大震災支援
子どもたちに
笑顔をおくろう

花巻市…12月4日(日)
盛岡市…12月11日(日)

各会場で、自分たちで用意した手作りのポスターを手に大きな声で元気に市民に呼びかけました。ユニセフ募金活動に協力いただいた学校、事業者のみならず、ボランティアのみならずありがとうございました。

ユニセフ募金贈呈

盛岡スコール高等学校、北上市立鬼柳小学校と二子小学校、盛岡大学生協学生委員会、盛岡市立大新小学校と角浜小学校から募金が寄せられましたので紹介します。



▲ハンドインハンド募金のスコール高校の皆さん ▲12月21日盛岡大学生協学生委員会の皆さん

●北上市立鬼柳小学校と二子小学校で募金贈呈式を行いました

北上市立の鬼柳小学校では、12月6日、全校朝会で、二子小学校では、12月22日の終業式で、ユニセフ募金贈呈式を行い岩手県ユニセフ協会花巻友の会の林正文会長が出席し、両校からの募金をお預かりしました。



▲12月8日大新小学校の贈呈 ▲12月5日 角浜小学校で感謝状贈呈

ユニセフ出前講座 11月27日、花巻コープ 青笹の親子23名が参加



感想文から

ユニセフの活動のおかげで、たくさんの子どもの命が救われていることが分かりました。日本ではじゃくちをひねれば出てくる水も、日照りが続く国では1てき1てきがとても大切なんだなあと思いました。他の国では、5才になる前に死んでしまうことも分かりました。世界地図に色をぬるとき、みんなで協力して楽しかった。ありがとうございました。

青笹小学校 5年佐々木 香歩さん



▲出来上がったポスターを手に記念撮影



▲イオンモール盛岡で募金の呼びかけ



▲カワトク前で募金する親子連れ



▲イオンモール盛岡で記念撮影



▲クロスステラスでの記念撮影



▲ホットライン肴町



▲MOSSビル前で記念撮影

「子どもたちの3・11ユニセフ東日本大震災報告写真展」

多くの著名な写真家の方々、国内報道各社のみならずのご協力をいただき、この惨状と子どもたちの実情、そしてみなさまの募金によって展開された緊急支援、復興支援の様子をみなさまに伝えるとともに、息の長い支援を訴えていかなければならないと写真展を開催いたします。

日時：2012年3月1日(木)～3月5日(月)
時間：10:00～17:00
会場：盛岡市 イオンモール盛岡 2F イオンホール
入場料：無料

東日本大震災支援コンサート

3月3日(土) 14:00～ セントラルコート
出演：盛岡市キャラホール少年少女合唱団



昨年9月東京で開催後、国内外で開催中

岩手県ユニセフ協会役員 (敬称略・50音順)

役職	お名前	役職名
顧問	増拓也	岩手県知事
	村田源一	(株)岩手日報社相談役・前岩手県ユニセフ協会会長
副会長	三浦善宏	(株)岩手日報社代表取締役社長
	加藤善正	岩手県生活協同組合連合会会長理事
専務理事	藤井善克	岩手大学学長
	高橋セキ	元岩手県生活協同組合連合会専務理事
常務理事	安藤厚	元岩手県教育委員長
	梅澤明	いわて生活協同組合常務理事
理事	高橋公	岩手県学校生活協同組合専務理事
	林正文	岩手県ユニセフ協会花巻友の会会長
理事	井田郁子	盛岡消費者友の会
	守部志行	岩手県青年海外協力隊を育てる会理事
理事	阿部敬	岩手県小学校長会会長
	石川成暉	(社)岩手県医師会会長
理事	稲葉成暉	岩手県町村会会長
	大川公	NPO法人岩手県地域婦人団体協議会会長
理事	堀勉	岩手県医師会理事
	鎌田英樹	(株)IBC岩手放送代表取締役社長
理事	小松一	NHK盛岡放送局長
	佐藤一	岩手県中学校長会常任理事
理事	藤樹滋	(株)岩手めんこいテレビ代表取締役社長
	瀨川玲	勲日本ユニセフ協会花巻友の会副会長
理事	谷藤明治	岩手県市長会会長
	富永浩也	(株)岩手朝日テレビ代表取締役社長
理事	豊巻浩也	岩手県教職員組合中央執行委員長
	榎憲	(株)テレビ岩手代表取締役社長
理事	沼内淑	もりおか女性の会副会長
	宮内孝	岩手県立大学名誉教授
理事	増子英	立正佼成会盛岡教会会長
	村山悦	宮沢賢治記念会理事長・花巻商工会議所会頭
理事	宮澤慎	(社)岩手県PTA連合会会長
	米沢慎	秋山会計事務所所長
理事	秋山信	岩手県消費者団体連絡協議会事務局長
	伊藤慶	

役職	お名前	役職名
評議員	泉田将治	岩手県青年団体協議会会長
	上田高	岩手県高等学校教職員組合執行委員長
評議員	及川サチ	岩手県退職女性校長会顧問
	大内豊	盛岡タイムズ社長
評議員	小田島順造	岩手県私学協会会長
	小野務	日本労働組合総連合会岩手県連合会事務局長
評議員	小野晶子	国際ソロプチミスト盛岡
	川村宗生	(株)川徳代表取締役社長
評議員	桑島博	(社)岩手県社会福祉協議会会長
	小苅米葉	盛岡ソングクラブ会長
評議員	佐久間一	盛岡ライオンズクラブ会長
	佐々木岳	(社)日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長
評議員	鈴木露通	岩手県労働組合連合会議長
	反町久美	いわて生活協同組合理事
評議員	高橋克彦	作家
	高橋和彦	岩手県高等学校長協会会長
評議員	高田沼	岩手県農業協同組合中央会会長
	千葉庄	岩手県商工会連合会会長
評議員	千野仁	岩手県市町村教育委員会協議会教育部会長
	智田一	盛岡ハイロケットクラブ会長
評議員	沼宮内拓哉	日本ボーイスカウト岩手連盟事務局長
	平井ふみ子	(社)ガールスカウト日本連盟岩手県支部支部長
評議員	村田憲	(株)エフエム岩手代表取締役社長

2011年8月

あとがき

●岩手県ユニセフ協会設立10周年記念事業は、多くのみなさまのご協力をいただき「第1回いわてユニセフアウォーク」「10周年記念公演」を無事終えることができましたことに心から感謝申し上げます。子どもたちのために新たな10年に向けて一緒に歩み続けましょう。

●「津波は憎いが海は好き」とテレビで話していた人がいましたが、何度か足を運び「陸中海岸国立公園」のすばらしさをあらためて感じています。養殖イカダ・真新しいアイ・輝く海を見てとてもうれしい気持ちになりました。沿岸にこう!